

はじめに

帝国データバンク史料館は2007年4月、信用調査の重要性を広く認識していただくことを目的として開設した。以来5年間多くの方にご来館いただき、特別企画展や講演会を開催し、またお客さまと当館を結ぶコミュニケーション誌として『帝国データバンク史料館だより Muse』を季刊発行してきた。

本書は『Muse』の「別冊版」として、質・量ともにボリュームを増した冊子である。企業が史料を収集し、保存、活用することの意義について、専門家へのインタビューや寄稿、座談会、企業史料を取り巻く現場からの事例報告等で構成している。企業史料協議会、一般財団法人日本経営史研究所と連携し、資料収集、保管そして利活用の現状と課題をテーマとした。

「アーカイブズ」という言葉が日常的に聞かれるようになった昨今。「企業と史料」がどのように関わり、共生し、未来につながっていくのか。識者たちの言葉から、その糸口を見出すことができればと願う。

2012年10月

帝国データバンク史料館

目次

はじめに	
巻頭インタビュー 猪瀬直樹さん	
企業にとって、社会にとって 記録、資料の価値とは何か	6
協働プロジェクト	
新 100歳企業13,000社実態調査	16
特別論稿	
良い社史 悪い社史	26
企業アーカイブへの期待—歴史的資料で組織を支える—	31
資料保存の考え方と取り組み方	36
現場報告	
『花王120年』、編纂から完成まで	43
東芝科学館、50年の歴史とアーカイブ	49
Talk Session 白熱メッセージ 松崎裕子 森本祥子 鎮目良文 中臺綾子	57
アーカイブズを社会の力とするために	
Muse Special Guest 由井常彦さん	
経営史研究の開拓者、その素顔に迫る	80
逸品解題	89